

よ西見なり。又祐之祐、獨祐、弘金判、皆多
精殊教總は師金を又、何哉、金泥の法華經、亦
立石寺にあり、三代実徳天皇、八貞親六年、正
月十日、日の糸に延暦寺、座を傳、龍大法師、
位田仁、卒すとあり、俗姓、或金生一生の行状、委々
見へ傳れた事、無きれば、是より裁き、もと貞親
八年、慈覺大師と稱せしむ。

一 根本中堂

東の方より有り、形よ、清和天皇の石塔と
いふあり。

一 奥院

東山の山入より有り、山を状曰、奥院者、寂寛
上人、声處、番僧、聖挑、常任、號云々、又曰、奥院
志安、是十羅刹女、衆生、漸渡、爲年、主、常、號
云々、絶云々、け、火消、り、付、ハ、敵山の火を云々、
又、敵山、ハ、消、り、付、ハ、け、山より傳ふといふ事
古傳の古蹟なり、二山の記録、ハ、火の消傳
りて、云々、りの事、も、な、けれ、ハ、伝用、云々、
云々、に、堂の、前に、安、楽、梅、といふ、あり、築、案
安樂寺より傳れる、梅、も、や、梅の、を、云々、